

令和6年度 学校評価表 学校教育目標「ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成」

学校経営の重点目標	評価計画 評価指標	アンケート調査結果 (肯定的評価%)			自己評価 結果分析(成果と課題)	改善計画 改善案および今後取り組んでいきたいこと
		教職員 (12/12)	生徒 (43/47)	保護者 (44/47)		
【1】 未来を切り拓く確かな学力の育成～「生きる力を育む」	① 授業では、課題の解決に向けて、生徒が自分で考え、自分から取り組むことができています。	100%	90%	88%	○生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。	■校外で行われる研修に積極的に参加し、効果的な指導方法、ICTの活用方法等の習得を目指す。 ■一人一授業方式の授業研究を継続し、生徒の授業評価を継続して行い、校内で授業改善の意識を高め、指導改善に努める。
	② 授業では、他者との対話を通して、生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。	92%	83%	82%	○ペア学習やグループ学習等、指導形態を工夫し、生徒は意欲的に取り組んでいる。 ▲ペア学習やグループ学習の目的を明確にするとともに、対話をとおして自分の考えを深める機会としていく必要がある。	■かけこタイム(市推奨「スリンプログラム」)を活用し、話し合い活動に対する抵抗感をなくしていくとともに、ペア学習やグループ活動を授業に積極的に取り入れ、学び合いを推奨していく。 ■総合的な学習の時間の活動と連携し、発表やまとめ・表現の場を多くつくる。
	③ 授業や家庭学習課題において、生徒1人1人に応じた学習指導が行われている。	83%	93%	78%	○タブレット端末を活用して、宿題の周知や提出を積極的に行っている。今後も個に応じた学習指導を提供していく。 ▲学年によって肯定率にばらつきがあり、家庭学習にうまく取り組めていない生徒もいる。	■全国や県の学力調査、授業における小テスト等を活用し、個々の強みと弱みを把握したうえで、個々の支援を充実させていく。 ■国・数・英の3教科ではチャレンジテストを実施し、合格点を設定して、意欲を高めようとしている。個に応じた合格点の設定や宿題量の調節を行う等、柔軟に対応していく。
	④ 総合的な学習の時間等において、生徒が自分の生き方を考えたり、将来に必要な力を身につけたりするための学習が行われている。	100%	89%	78%	○総合的な学習の時間を軸に行った取組が、キャリア形成に必要な力を身に付けているという実感を持っている生徒が多い。 ▲地域、卒業生がいる学校、小学校との交流を希望しているという保護者意見があった。 ▲全国学力調査の結果から、将来の夢を持っていない生徒の割合が全国・県と比べても多かった。	■引き続き、地域や企業の方から学ぶ機会を設けたり、キャリアパスポートを有効に活用したりして、学校で学んでいることと実生活や将来とのつながりを意識できるような指導・支援の在り方を検討する。 ■将来の夢や希望を持つ生徒が増えるように、教育活動全体をとおして成功体験や社会とのつながりを感じられる経験を積み重ねることができるよう工夫していく。
	⑤ 授業や学習課題において、ICTや学校図書館を効果的に活用している。	83%	78%	82%	○総合的な学習の時間を軸に、キャリア形成に必要なICT・図書館を活用した学習課題を計画的に実施している。 ▲ICT(学習用タブレット端末)を利用するようになり、学校図書館を利用することが減った。	■文部科学省が作成している「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」等を活用して、効果的な活用方法を検討していく。 ■アンケート等、様々な方法で、生徒の視点に立った読書活動の推進を図る。
【2】 一人一人を大切にしたい教育の推進～「居場所づくり」	⑥ 生徒会活動等において、生徒主体の「人との関わり・対話」を大切にしたい取組が行われている。	92%	95%	94%	○生徒会組織を見直し、再編を行った。各委員会の人数が増えることで、ゆとりをもって委員会活動を行えるようになった。 ○かけこタイムを活かして、ソーシャルスキルトレーニングを行い、話しやすい関係づくりを行っている。	■集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるため、委員会活動を充実させていく。 ■生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を身につけることができるよう、総合的な学習の時間等との連携を深める。
	⑦ 道徳の授業等を通して、多様性を認め、お互いを思いやり高め合う温かい人間関係づくりが行われている。	91%	88%	79%	○特別の教科道徳の確実な実施や、人権集会、生の楽習、情報モラル教育等をとおして、自他を大切にしたいの育成に努めた。 ▲「わからない」を回答した保護者が25%とやや多かった。	■道徳や人権教育に対する取組について、情報提供を積極的に行っていく。
	⑧ 日々の会話や教育相談等を通して、生徒の思いや悩みに対してきめ細やかに対応している。	100%	86%	79%	○教職員や生徒の肯定評価は高く、個々のニーズに合ったきめ細やかな指導を行っている。保護者の声を聴くように努めた。 ▲「わからない」を回答した保護者が36%とやや多かった。	■普段から生徒と教職員、生徒同士の信頼関係が深まるような取組を充実させ、悩みや困ったことが起きたときに相談しやすい関係づくりに努める。 ■学校の様子を家庭で話す機会が増えるように、PTAとも連携して、効果的な方法を模索する。
【3】 特別支援教育の充実～「自立と社会参加」	⑨ 生徒の発達の段階や特性に応じたきめ細やかな指導や支援が行われている。	92%	91%	88%	○校内教育支援センターでの指導の充実、特別支援学級における個別の授業の充実、ICTの活用等とおして、個々に応じた支援を行い、生徒の取組等に変容・改善が見られた。 ▲教員の人数が少なく、ほとんどの教員が授業に出向くため、就業時間内の会議や、突発的な事案、出張等への人員配置に苦慮することが多かった。	■実態に応じ、個別指導やグループ別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、教師の協力的な指導等指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図っていく。 ■生徒と教職員の負担過重にならないように留意する。
	⑩ 生徒理解、小刻みな情報共有等、全教職員で取り組む教育支援体制ができています。	92%			○学年部代表者による毎朝の打合せ、生徒指導部会の定期的な実施、管理職に報告がすぐぐにあり組織的な対応ができています等、全教職員が一丸となって生徒支援・指導に力を入れている。	■担任が一人で問題を抱え込まずに、学年主任や生徒指導主事等と協力して、機動的連携型支援チームで対応する。
	⑪ 保護者、行政・医療等の専門機関との連携が図られている。	100%			○おんせんキャンパスとの連携、市教育委員会、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療との連携を図って事案に対処した。	■校外の関係機関等との連携・協働に基づくネットワーク型支援チームによる地域の社会資源を活用し組織的に対応する。

評価計画		自己評価			改善計画	
学校経営の重点目標	評価指標	アンケート調査結果 (肯定的評価%)			結果分析(成果と課題)	改善案および今後取り組んでいきたいこと
		教職員 (12/12)	生徒 (43/47)	保護者 (44/47)		
【4】 信頼され、愛される学校づくり ～「家庭・地域に開かれた学校」	⑫ 地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと教育や地域貢献活動が行われている。	100%	90%	98%	○地域企業の方を招いての講話、職場体験、まち興しイベントの開催等、地域の方に支えていただき、教育活動を実施することができた。 ▲生徒の業を実現するための内容検討・渉外・情報収集・計画・打合せ、ふるさと教育に係る研修等、教職員の時間の確保が課題。 ▲みなふれ大作戦は、事業の目的や内容を検討する必要がある。	■生徒数の減少を踏まえて、ねらいを明確にした総合的な学習の時間の在り方を模索していく。 ■地域コーディネーターを活用し、地域ボランティア活動を積極的に発信していく。 ■働き方改革推進の方針を踏まえ、事業内容や持ち方の検討を行う。
	⑬ 学習公開や学校だより、学年だより、HPにより、生徒や学校の様子を発信している。	100%	95%	88%	○授業の様子や行事の取組等を積極的に発信している。	■情報発信に努めるとともに、生徒・保護者・地域のニーズを適切に把握し、それに応えられるように工夫していく。
	⑭ 学校は、安心安全な教育環境が整備され、事故防止や災害防止への対策や指導が行われている。	83%	95%	92%	○毎月の安全点検の確実な実施、生徒による安全点検の実施、避難訓練の定期的な実施等をおして、事故防止や災害への備えを行っている。	■大雨、台風、地震等の自然災害のリスクを想定し、避難訓練を確実に実施するとともに、危険を予知し、自らの安全を確保することのできる力の育成を図る。 ■人間関係も含め今後も快適な学校生活づくりを学年懇談会などの機会をとおして保護者とともに考えていく。
	⑮ 部活動や伝統芸能、その他各種大会・コンクール等、生徒が学校外で活躍できる機会がある。	100%	90%	86%	○さまざまな機会をとおして生徒が活躍できる場を提供することができた。 ▲生徒の人数が少なくなり、部活動の再編を希望する保護者の意見が複数あった。	■雲南市が進めている部活動の地域移行を見据えながら、部活動の在り方を模索していく。 ■市から発信される地域移行のねらいや今後のスケジュール等の情報を、保護者にわかりやすく伝え、理解を得ながら部活動を行っていく。
学校関係者評価委員会	<p><学校より自己評価全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒・保護者の肯定的評価の割合が高く、多くの保護者の方に学校教育活動に対し理解と協力をいただいていると認識している。回答率も昨年度より高くなっている。 ●項目によっては、保護者アンケートに「わからない」と回答されたものが比較的多いものがあった。設問の内容の見直しや、家庭での会話が増えるように、学校の教育活動の更なる情報提供・開示を行う。 <p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「授業や家庭学習において一人一人に応じた学習指導が行われている」の質問に対して、保護者の回答からは学年間での肯定率のばらつきがあり、学年ごとに状況を把握して対応していく必要があると思われる。 ●総合的な学習の時間で培ったICT活用技術やベア学習の成果が、教科学習の充実につながることを期待している。好事例があるとそれを共有していくことが大切ではないか。 <p><働き方改革></p> <ul style="list-style-type: none"> ●限られた時間とスタッフという制約がある。その中で地域や保護者の方など多くの方を巻き込んで教育活動を行うことが求められている。 <p><総合的な学習の時間等の教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学生の今頃は、ふるさとに目を向けることの大切が芽生える時期。総合的な学習の時間でのふるさとに関する学習は、ふるさとを大事にしていこうとする気持ちを育てる上で非常に意義がある。 ●学年別の発表を聴いてみると、ふるさとに関する学習に慣れてきているように感じている。成長が早いと思う。ふるさとに関する学習を行うきっかけや学びに向かう土台ができていく。「地域が好き」と答えている生徒の割合が高く、小学校からの学習の積み重ねの成果が表れていると思う。 ●掛合中の地域課題解決学習は注目されている。昔からやっていたら今が違っていたのかもしれない。 ●前は、地域課題への提案が多かったが、自分たちで解決していこうとするところが良い。「将来地域課題を解決するために残ろう」という生徒が育つのではないか。 ●「いいところはないか？」という視点から、「いかにして地域に入り込むか」「こういうところを伸ばしたらいいのではないか」という視点に変えていくといいのではないか。自分たちでできることを見つけることが地域とのつながりを生み出していくことになるのではないか。 ●高校ともできることから連携していくとよい。 					

※肯定的評価の割合・・・アンケート調査の「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」のうち、「わからない」を除いた「そう思う」「だいたいそう思う」の割合